
黒い眠り姫と恋しましょう

弘道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い眠り姫と恋しましょう

【Nコード】

N7032Y

【作者名】

弘道

【あらすじ】

三月二十八日、永眠しました。

気づいたらチョーロー（私命名）とグラマー美人、銀髪赤目のイケメン（苦笑）、槍やら剣やらを持った男の人たちに囲まれてました。

黒のお嬢さんってなんなんだよ！

「無礼ですよ、騎士団長」とは全然違った話になってました。かなりのギャグになりそうです。

永眠

ー猫が、居た。

道路の真ん中に居たその猫を助けようと道路へ飛び込んで、私の視界は真っ赤に変わった。

あ、死んだ？

心に浮かぶ思いはその四文字で、人間って死ぬ時こんな思考があっさりしている物なのね。

そう他人事のように思った。

ああ、体が重くて冷たい。

来世は猫になりたいなーふかふかの黒いやつー。

あーあ、どっちにしる次に横たえてんのは白いベットのの上だろうなー、病院行きたくねえーあそこ薬臭いんだよねー

ー一回検査入院したからもう二度といきたくないわー

そんな事を考えながら、三月二十八日、緒方小夜は永眠した。

黒のお嬢さん？そんな事より笑っていいですか？

「で、なんで私はここにいるんですかね？」

たった今さつき車に轢かれ死んだ？はずの私は目が覚めると大広間
みたいなのこのど真ん中に居ましたー。

目の前にはスツゲーグラマーで真つ赤なドレスをきた美人で金髪の
お姉さんと、なんか槍やら剣やらを持った男の人たちがうじゃうじ
や、そんでヒゲのジジイと銀髪赤目のイケメン（苦笑）が立ってま
した。

小説的にいくと転成トリップってやつう？

…自分、キモイ。鳥肌立った。

心の中でぶつくさ言いながら周りの観察をする。

ここで文頭のセリフへ戻る。

あーあ、せつかく生まれ変わったら気ままな猫生活しようと思って
たのによーなんでしんでねえーんだよ、なんなんだよこれ、コスプレ
レ集団？

…ドッキリか？

いや、ドッキリにしては死ぬ時の感覚がリアルだったなー。

夢オチだったらいイナー（*^^*）

なんて現実逃避をしまくります。

するとチョーロー（ヒゲのジジイ。さっき私が命名した。）が口を開いた。

「ようこそ、クロのお嬢さん。貴女には是非陛下の嫁になっていた
だきたく…」

「は？」

すると隣のイケメン（苦笑）が口を開いた。

「いや、だから俺の嫁になって欲しいんだが…」

「ハッ」

お分かりいただけただろうか。

同じ『は』にもかかわらず、最初の疑問系と次の嘲笑を！これぞ『
は』の二段活用である。

なんて現実逃避をしていると隣の魔女（それっばいよねー金髪美人
ー）が話かけてきた。

…ちなみにイケメンは部屋の隅で「初めて嘲笑された…」と眩きな
がら落ち込んでいる。

これだから坊ちゃんは。

「初めまして、黒のお嬢さん。私はこの国の魔女、ローザンヌよ。貴女をこっちに召喚したのは私なの…ごめんなさいね、でも、絶対不自由はさせないわ。約束します。」

ほーらみるー！やっぱしこの人魔女じゃん！私の予想マジばねえ！

…今なんて？召喚ったか？

「その、召喚？されたから私は死んだんですか？」

一応聞く。聞くは一瞬の恥！

「えっ、いや、召喚の条件で異世界で死ぬ直前の娘、ってなってるのよ！その中で黒のお嬢さんに当てはまるのが貴女だっただけで！」

なんなんじゃそれ、老衰直前でもありなのか？

…それは娘さんに入らないのか。

「黒のお嬢さん、ってなんですか？さっきから連呼してますけど」

するとチョーロー（私命名）が説明に入った。さっきから話すやつ立ち替わりしやがってめんどくせえ。ひとりで話せよ。

「黒のお嬢さん、とは異世界で最も陛下の嫁にふさわしいお嬢さんの事でな、陛下の即位する直前に召喚するんだがその召喚の直前に異世界で死ぬらしいんじゃない…そしてその娘たちは全員漆黒の髪に漆黒の瞳なのじゃよ…ああ、自己紹介がまだだったな、この国の神官

長のチヨー・ローじゃ。気やすくチヨーとよんでくれ。どうした！
苦しいのか!？」

うつむいて口を押さえ込んで小刻みに震える私を見て周囲が慌て出
した。

すいません、でも、チヨーローって呼んでた人の名前がチヨー・ロ
ーだったら笑いませんか？

就職氷河期が悪い。

「くっ、いやっ、ぷっ、その、大丈夫っでふふくっす！」

爆笑しながら答えてると皆か怪訝な顔をして見つめてきた。

槍をもったやつなんか陛下（爆笑）に「本当にこれが黒のお嬢さんですか？っていうかこんな嫁にもらって大丈夫ですか陛下？」なんて言っている。

いや別に私陛下の嫁むすめになる気は無い。

いや、まてよ、別に断わる理由も無いのである。

だってさ、さつきからイケメン（失笑）って連呼してるけど、多分この状況じゃなかったら思わず反射で写メってしまうくらいには顔が整っている。

しかも、王族の嫁である。

確かに王家とか大変かもしれないけど、元の世界では私は就職氷河期にさらされ大学四年になったにもかかわらず就職先がまだ決まっていな。

…永久就職…

これは魅惑的すぎる響きである。

しかも、悲しむべき事に私は彼氏いない歴〓年齢である。

…そんなにモテないような顔してるかな…

なぜか友人もできないというひとりぼっち体質なのである。

さみしい…なんて言うと思ったかばーかばーか！！

別に悲しくなんかないんだからね！

取り合えず、前向きに検討してみよう。なんか他にも王族にならずに就職できる方法があるかもしれないし。

羽毛ぶとんって最強ですよね。

「で、本当に私が嫁でいいんですかね。召喚もつかいしたらもつといい娘いっぱいとっ捕まえれるんじゃないですか？」

『前向きに検討します』的な事をほのめかす発言をしたら何故か結婚することになりました。

何故こうなった。

「とっ捕まえるって…」

横で苦笑しているのはイケメン（苦笑）です。

本名をアシル・クロード・バルテレモンというそうです。

今度から足って呼んでやろう。

部屋に案内されましたが、えらく豪華ですね。きつと蓮 みたいなのが事業仕分けすることになったならこういところから削るべきだと思っ。

「もう夜だ、ゆっくり寝…」「うひゃっほーい！」「て…は？」

足の言うことは聞いてませんでしたサーセン。

だって！だって目の前にぶつかぶつかの羽毛ぶとんがあるんだもの！！

家より二倍はあると思われる分厚さ、飛び込んだ時の体の沈み加減…此処が樂園なのね！そうなのね！

絶妙な柔らかさと暖かさにつつらうつらし始めちゃったぜ。

何 が 悪 い ！

そのまま意識を闇に手放した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7032y/>

黒い眠り姫と恋しましょう

2011年11月22日04時02分発行